

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610510087		
法人名	医療法人 藤野会		
事業所名	グループホーム成田		
所在地	徳島県美馬市脇町拝原2573-1		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成31年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・隣接している協力医療機関との連携を強化し、必要時には迅速に適切な医療が受けられる体制が整っていることが何よりも当事業所の強みである。 ・協力医療機関には利用者の状態を詳細に把握している看護師がおり、介護職員は利用者の日常生活における医療的相談をしたり、指導を受けることができる。 ・協力医療機関の理学療法士が月1回程度来訪し、生活の中でのリハビリについて指導を受けている。 ・職員は法人内外での多職種による勉強会や各委員会へ参加し、知識・技術の向上を目指す取り組みを実施している。 ・利用者様やご家族との面談を行っており、要望・意見をよく聴いてその思いを叶えるケアが提供できるように努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、閑静な住宅街にあり、同一法人が運営する医療機関や施設が隣接している。緊急時に24時間対応可能な体制や医療やリハビリテーションの連携体制を整え、利用者や家族の意向や希望の把握に努めている。年2回の家族面談などもあり、利用者や家族の意向や希望の把握に努めている。職員は、積極的に法人内外の研修に参加し、利用者の尊厳や権利を尊重し、寄りそう介護を実践している。また、年2回個別面談を行うなど、代表者や管理者と職員との間でコミュニケーションが十分に図られており、意見や気づきを活かして、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。年1回、地域住民を招待して地域食事を開催したり、中学生などの研修生を積極的に受入れたり、地域交流も盛んである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス等で理念に沿ったケアができているかの確認をしている。いつも目の届く所に掲示し、確認できるようにしている。	事業所では、全職員が地域密着型サービスの意義を確認できるように、事業所内の目の届くところに理念を大きく掲示している。毎年の職員会議でも理念を再確認し、理念にそったケアについて意見の統一化を図り、日頃の支援に活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の理容店の利用、外出支援の散歩などで地域の方々と交流している。地域交流食事会では近隣住民を招待している。	事業所では、近隣住民から野菜をもらったり、挨拶を交わしたりなど、地域住民との顔なじみの関係を築いている。地域のイベントへの参加や地域ボランティアの来訪、中学校の体験学習による研修生の受入れなど、積極的に地域交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学の職場体験の受け入れや地域交流会、運営推進会議などを通じて認知症ケアに関する取り組みを伝え、理解を深めてもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域住民、行政、他施設など各分野の方々に参加して頂き、現状報告を行ってご意見をいただいている。	2か月に1回、運営推進会議が開催されている。利用者や家族、保険者、地域包括支援センター、消防署、地域住民代表者の出席を得ている。運営推進会議で受けた助言や意見について、職員会議の中で話しあい、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月状況報告を行っており、その際に現状報告や相談を行いご意見やご指導をもらっている。	職員は、毎月、市担当窓口に出向き、ケアサービスの現状や困難事例を報告し、情報や助言を得ている。また、保険者と市内グループホームが協働して連携会議を開催し、年3回勉強会や情報交換を行うなど、協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束は行っていない。緊急やむを得ない場合は管理者、家族、職員を交えて協議を行い必要最小限に済むよう努めている。	事業所では、年1回内部研修を開催している。全職員が身体拘束の弊害について理解し、自由な暮らしを支えられるように努めている。また、マニュアルを作成したり、外部研修にも積極的に参加したりして、人権を尊重した取り組みを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会の参加やカンファレンスにおいても不適切なケアがないかチームで確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度の利用者はいないが、職員においては勉強会に参加するなどして制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項や事業の取り組みについて説明し、同意を得ている。不明な点はその都度面談等で質問・相談をお受けしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回ご家族との面談を設けており現状報告、意見交換を行っている。また意見箱も設置している。	事業所では、年2回の家族面談や年1回の食事会の際に、利用者や家族から意見や要望等を聞き取る機会を設けている。出された意見等は、職員会議で共有し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回、個別面談にて職員からの意見、提案を聞きとり、運営に反映できるように努めている。	事業所では、年2回個別面談を行い、職員の意見や要望を聞き取っている。法人は、年1回ストレスチェックを行ったり、業務中に意見を確認したりなど、働く意欲の向上や質の確保のためのコミュニケーションにも留意している。職員一人ひとりの力を活かし、運営面に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の長所と短所を把握し、それぞれに合った業務を行わせることで働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修に参加する機会を設けて能力アップに努めている。また、資格取得に向けての支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美馬市指定グループホーム合同連携会議に参加し、他施設との情報交換や交流の中から自施設のサービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学や体験入居等でロケーションダメージ軽減に努めている。また、本人やご家族の要望や生活環境の聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を聴き、そのニーズに合った支援方法を模索し実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した利用者のご家族にとって何が必要なのかをアセスメントし、職員がチームとして適切な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の尊厳を第一に考え、パーソンセンタードケアを実践し共に生活し助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力を得ながら本人をサポートし面会時には現状報告も行っている。本人、家族、職員が互いに信頼できる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人がこれまで利用してきた美容室の利用や地域の老人会への参加等をご家族の協力を得ながら支援している。	事業所では、馴染みの美容室の利用を支援したり、手紙や年賀状を書いたり、友人の来訪を快く受け入れたりしている。利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努めるとともに、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係性を持ち、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、利用者間のトラブルを未然に防ぐことで楽しく過ごせるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となり退居されたとしても相談を受けた際は必要に応じてフォローし今までの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で本人の思いや意向を傾聴し、把握に努めている。コミュニケーションが困難な方についてはその表情や行動の細かな変化を見逃さないように努めている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、会話や表情に着目し、希望や意向の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、家族や関係者に確認したり、日頃の行動や表情から意向をくみ取ったりして、利用者がその人らしく暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに気を配りながらこれまでの生活歴、家族構成などの情報を本人及びご家族から話を聴いて把握し適切な支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の残存機能や生活リズムを観察し、把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開催し、そこで出た意見を元に介護計画を作成している。	職員は、本人や家族、主治医、関係スタッフと話し合い、その人らしい暮らしの支援を目的として、チームでケアプランを作成している。3か月に1回のケアプランの見直しやモニタリングだけでなく、利用者の状況に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子や身体的状態等を記録し、その情報を元に職員間で話し合い、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の思いを大切に、ニーズの変化に柔軟に対応出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店や商店を利用して良好な関係を作り、地域の方々とのつながりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は協力医療機関だけでなく利用者の状態や希望により他の医療機関での受診も出来るよう支援している。	事業所では、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。認知症専門院や地域の医療関係者等の協力機関とは、24時間連絡可能な体制が築かれている。家族の協力を得ながら通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の担当看護師に利用者の情報提供を密に行って医療面での対応について、いつでも相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に利用者の情報提供を行っており、速やかな入退院に対応できる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては本人やご家族の意向を早期から把握し、主治医も交えて話し合いながら支援できる体制を整えている。	事業所では、看取りの指針を整備し、契約時に本人や家族の同意を得ている。心身の状況の変化に応じて利用者や家族の意向を確認し、かかりつけ医や関係者と相談しながら、対応方針の共有化を図っている。チームで連携しながら、利用者や家族の意向にそった支援体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の看護師による勉強会に参加するなどして急変時や事故発生時の具体的な対応について備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体及び事業所単独での防災訓練を実施している。また地域の防災訓練にも参加し近隣住民に災害時の協力も依頼している。	年2回、消防署の協力を得て、夜間と昼間を想定した避難訓練を実施している。災害マニュアルや備蓄の整備を行っている。地域の勉強会や防災会議にも参加している。事業所は、緊急時の避難場所の指定を受けており、地域との協力体制を築きながら、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーの侵害となるような態度や言葉がけをしないよう日常の関わり方について職員間で確認し合い実践している。	職員は、利用者一人ひとりの人格や尊厳を尊重し、自尊心を傷つけないよう、さりげない声かけや誘導を心がけている。年1回プライバシーに関する研修会を開催し、サービスの質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活支援の中で利用者が職員に気兼ねなく話せる雰囲気作りを行い、自己決定できる機会を意図的に作るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務優先になり利用者の生活リズムを乱すことのないよう利用者個々のペースや過ごし方に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、朝晩は着替えをして一日中パジャマで過ごすことのないよう支援している。また、外出や行事の際には一緒に好みの服を選んだり、整容や化粧の支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように季節ごとの食材を使用して提供している。また、その人の状態に合わせて食べやすい軟菜に変更したり、好みのメニューを取り入れたりしている。準備、片付けも手伝ってもらい、コミュニケーションも図っている。	事業所では、同一法人が運営する他の事業所の管理栄養士が献立した食事を提供している。近隣住民からもらった野菜を使用して季節感を感じられるようにしたり、手作りおやつや行事食では利用者の好みに合わせて献立や形状を工夫したりしている。後片付けなど、できることは利用者と一緒に楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の疾患、栄養状態を把握し、場合によっては栄養補助食品を利用するなどして無理なく栄養・水分が摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。口腔内、義歯に異常があれば早期に協力歯科医療機関に受診できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	1階ユニット「凜」		外部評価	
			自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し適時にトイレ誘導を行い、少しでもオムツ内への排泄が減らせるように支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限り自立に向けた支援に取り組んでいる。介助の際にはさりげない声かけや誘導を行い、プライバシーを損ねない支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い、無理なく水分摂取量が確保できるように飲み物を工夫したり、ヨーグルト等の乳製品を活用して自然排便を目指している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を聞きながら快適な入浴が出来るよう支援している。体調の悪い時等は清拭、陰部洗浄等で身体保清に努めている。	事業所では、羞恥心や不安感を取り除くよう、同性介助を行い、プライバシーに配慮した入浴支援を実践している。入浴を拒む利用者には、声かけや気分転換を行い、一人ひとりの要望や状況に応じて入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、昼夜逆転が起こらないようにしている。また、リネン交換なども細目に行い良質な睡眠がとれるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個々のカルテにファイルし確認できるようにしている。誤薬防止のために服薬時には声出し確認を徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の力量に応じた役割を持っていただくことで毎日が有意義なものとなるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の外出希望を把握しご家族の協力を得ながらその希望が実現出来るように努めている。また、状態により外出機会の少ない利用者には職員が付き添い、散歩に行くなどしている。	事業所では、散歩や買い物など日常的に外出している。遠出の年間計画や月間計画を作成して、利用者全員が参加できるように数回に分けて行っている。歩行困難な方には、車いすを利用するなど、その人らしく生き生きと暮らせるように外出支援を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望によりご家族の了解を得て少額のお金を持ってもらっている。移動販売や地域の商店での買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望すればいつでも電話をかけたり、手紙を出したりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では照明・空調などに気を配り、快適に過ごせるよう配慮している。また行事の写真の掲示や季節感のある飾りつけで居心地の良い空間づくりをしている。	明るく清潔感のある共用スペースは日当たりが良く、大きなソファでゆったりと過ごすことができる。利用者と一緒に制作した季節を感じる作品や写真、季節の花、鉢植えなども飾られ、季節感を取り入れた居心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で新聞を読んだり皆で談笑したり、歌をうたうなど利用者それぞれが居心地良いと思えるような場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人空間である為、自宅で使用していた愛着のあるものを持ち込んでもらい、自分の家と同じように安心できる環境づくりに努めている。	事業所では、利用者が居心地よく過ごせるように、馴染みの家具や写真、人形、ぬいぐるみなどを持ちこんでもらっている。安全面に配慮し家具の配置を工夫するなど、安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて車イス、シルバーカー、歩行器等を活用し、安全かつ自由に行動できるようにしている。また、過剰な行動制限は行わないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理規定や理念は、いつも確認できるところに提示している。職員は常に確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	気候の良い日には、近所のゴミ拾いなどに行き、清掃活動を行っている。近隣の理容店にを利用しており、馴染みの関係を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験の受け入れを行っている。2か月に1回の地域推進会議で、認知症ケアの取り組みを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催している。各分野の皆様からの貴重なご意見を参考にし、話し合い改善している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の状況報告書を、提出の際に、質問などがあれば、訪ねている。また、その都度、疑問点などは、問い合わせなども行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯などにより、玄関や窓は施錠している。しかし、日中の玄関やフロアの入り口は、不穩などが無い限り、施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内でも高齢者虐待の勉強会を実施している。参加できない職員は、資料を回覧している。また、法人外の勉強会もできるだけ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	合同勉強会を通じて日常生活支援事業や成年後見制度についての理解を深めている。対象者が入所した場合に準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、丁寧に説明を行い理解していただいているから、同意書をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、意見箱や直接面談を行い、利用者やご家族の意見や要望を聞いている。そして、ミーティングでも話し合い実現できるように、努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事評価や随時のミーティングで意見や改善点など聞いている。また、いつでも、職員が提案できる環境に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、個々職員の個性や長所を把握しており個々の指導と業務配置を行っている。また、働きやすい雰囲気づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の勉強会や研修などにも、積極的に声かけを行い、資格取得に向けての支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美馬市のグループホーム合同連携会議や医師会の多職種連携会議にも出席して、顔馴染みの関係づくりに努め、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居の方の心のケアに努めている。また、ご家族からの情報をもとに不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時にご家族の不安や要望を十分に聞き取りし、利用者もご家族も安心して、生活できるように話し合い、実行出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族にとって、今必要なケアについて話し合い、少しずつ生活に慣れて行くことが、出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者に対して人生の先輩として、尊敬の念を持ちながらも、第2の家族として親しみのある関係を構築していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面談や面会時などに、近況報告を行っている。遠方で来訪できないご家族にも、電話などで、近況報告を行っている。そして、共に利用者を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、本人の行きつけの美容院や歯医者など、利用している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の重度化が進行しても、共に交流出来る行事や機会づくりに努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
		2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも遊びに来れる環境にある。また、ご家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望に、きちんと向き合い話を聞いている。出来るだけ、要望に応えられるように、努めている。コミュニケーションが困難な方に対しては、日頃から意向や希望を、掴むように努めている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から話を聴いたり、前の施設や病院の情報提供を参考にして、利用者のこれまでの生活環境を把握するように、努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のレベルに添って、個別ケアを実施している。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開催し、意見やアイデアを参考に、介護計画を立案し実践に努めている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や認知症行動、身体的状態を記録し、その記録を職員間で情報共有して、介護計画の見直しに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の「思い」を大切に、臨機応変に対応できるよう柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店やコンビニを利用することで、顔なじみの関係が築けている。利用者が地域の一員として生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、本人や家族が希望する医療機関での受診が出来るように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の担当看護師に週一回来訪してもらい、状況報告と共に、相談やアドバイスをしてもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関には、日頃から利用者の情報を共有し必要な時に、入院出来る体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期の支援方法について、早期に本人やご家族に主治医との話し合いを行い、利用者・ご家族が安心・納得できるサービスが提供できるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は勉強会などで、急変時や事故発生に対応できるように学んだり、担当看護師から、指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体及び当事業所での防災訓練を実施している。新入社員には、新人研修も行っている。また、近隣住民にも災害時の応援を依頼しており、利用者の安全確保体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の尊厳と権利を守ることを大切にし入浴やおむつ交換時などもプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに出来るだけ応えるよう、努めている。誕生日などは本人の好きなものを聴いて何が良いか、自己決定しやすい雰囲気の中で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、業務を遂行することに気を取られて利用者の生活を乱すことがないように、その人にとって、過ごしやすいペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は、外出や行事などの時は一緒に洋服を選んで、整容やお化粧をしてその人らしいいきいきとした生活ができるように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態や好みに合わせて、食べやすい形態にしたり、好物を食卓に用意し、準備の段階から食事・片づけに至るまで、楽しい雰囲気の中で過ごせるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の個々の疾患や栄養状態に応じて、栄養補助食品を利用したり、水分補給も好みを把握して、無理なく摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、磨き残しがないようにしている。また、義歯や口腔内に異常がないかチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握して、可能であれば状態に応じて、トイレ誘導、ポータブルトイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い、水分摂取量の確保や食物繊維の多い食材の活用でまた、腹部マッサージなどを行い、薬剤だけに頼らず、自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を固定せずに、利用者が希望する日に入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠を防ぐ為に、出来るだけ日中の活動を高めるように支援している。しかし、高齢者の方々に合わせて、また体調に合わせて短時間の昼寝もとったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を随時確認している。また、協力医療機関の薬剤師からも指導やアドバイスなどを提供してもらっている。服薬時には声出し確認を行っており、安全に服薬支援が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の飾りつけや日々の洗濯物片づけやウエス切りなど、それぞれの力量にあった役割を持って、利用者同士協力しながら生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の関わりの中で本人の外出希望を把握して、家族にも協力得ながら、希望が実現できるように努めている。状況により、家族の協力が得られない利用者は、職員とともに散歩に出掛けたりして、気分転換をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者は、ご家族と相談して合意の下で持ってもらっている。好物を買ったり、化粧品を購入したりして、自身で支払いもしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により携帯電話を所持することも、ご家族の合意の下で持ってもらっている。勿論、携帯の所持がなくても、気兼ねなく家族に電話連絡や手紙を書いたりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の照明や空調に配慮し、利用者が快適に生活できるようにしている。また、季節が感じられるように、室内の飾りつけや草花を配置し居心地の良い環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の食堂で、会話を楽しんだり、歌をうたったりして、または一人でのんびりソファで、テレビを見たりして、利用者が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使っていた馴染みの家具やテレビ・小物・人形などを持って来てもらい、自宅での近い環境で生活できるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者は、個々の身体的状態に合わせて、車椅子や歩行器・シルバーカーを活用して本人が出来るだけ自立した生活が出来るように支援している。過剰な行動制限しないように工夫している。		